

## 創世記 48 創世記 35 章 1 節～29 節

### 「ベテルへの帰還」

#### イントロ：

1. 創世記は 11 のトルドット（歴史、経緯）に分かれる。

(1) 今私たちは、第 8 番目のトルドットにいる。

(2) 創 25：19～35：29 「これはアブラハムの子イサクの歴史である」

(3) きょうの箇所、第 8 番目のトルドットが終了する。

2. 文脈を確認する。

(1) ヤコブの安心（ラバンやエソウとの葛藤が終了した）

(2) それが危険をもたらす（ディナ事件）

(3) 私たちもまたシェケムにとどまるようなことがあるが、それは危険である。

①神に頼らなくなる。

②神への義務（約束）を忘れてしまう。

(4) ディナ事件は、神がヤコブの背中を押した事件である。

3. きょうの箇所

(1) 義務（約束）の履行（35：1～8）

(2) 更なる祝福（35：9～15）

(3) 更なる訓練（35：16～22a）

(4) 「イサクのトルドット」の終結

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(1) 聖書を読む際の注意点

①その箇所が今の私たちに語られたものかどうか、考える。

②どの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。

(2) 地上生涯における祝福と訓練について学ぼうとしている。

このメッセージは、地上生涯における祝福と訓練について学ぼうとするものである。

#### I. 義務（約束）の履行（35：1～8）

1. 神からの直接的啓示（4回目の直接的啓示である）。2つの命令

(1) 「立ってベテルに上り、そこに住みなさい」

①強い決断を促している。

②ある期間、ベテルに住めという命令。

(2)「そしてそこに、あなたが兄エサウからのがれていたとき、あなたに現れた神のために祭壇を築きなさい」

①創 28 章のベテルの体験

②ヤコブは「この石は神の家となり、…10分の1を必ずささげます」と言った。

③神はその履行を迫っておられる。

④これまで族長たちは自発的に祭壇を築いてきたが、ここでは命令が下っている。

## 2. ヤコブの呼びかけ（家族と、彼といっしょにいたすべての人に）

(1)「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き」

①ラケルが盗んできたテラフィムがあった（ヤコブは知らなかったか？）。

②シェケムで手に入れた奴隷たちは、偶像礼拝者であった。

(2)「身をきよめ、着物を着替えなさい」

①ともに、清めの儀式を指している。

②シェケムの奴隷たちは清めを必要としていた。

③シメオンとレビの手と衣は、血に染まっていた。

(3)「そうして私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこで、私の苦難の日に私に答え、私の歩いた道に、いつも私とともにおられた神に祭壇を築こう」

①「私の苦難の日」とは、ラバンとエソウとの葛藤日々を指している。

②ヤコブの一家にリバイバルが起きている。

## 3. 一家の霊的清め

(1)手にしていたすべての異国の神々をヤコブに渡した。

(2)耳につけていた耳輪も渡した。

①この文脈では、「耳輪は偶像礼拝と関係がある」と理解すべき。

②ホセア 2 : 13 参照

(3)「ヤコブはそれらをシェケムの近くにある榿の木の下に埋めた」（新共同訳）

①「隠した」（新改訳）よりも、「埋めた」の方がよい。

②偶像は死んでいるので埋葬することができる。

## 4. 旅立ち

(1)カナン人たちは後を追わなかった。

(2)2人でここまでできるのだから、11人が協力したら恐ろしい。

(3)神が彼らに恐怖を与えた。

## 5. ベテル到着

- (1) 以前はルズと呼ばれた。
- (2) ヤコブは祭壇を築き、「エル・ベテル」と呼んだ。「ベテルの神」という意味。
- (3) 「それはヤコブが兄からのがれていたとき、神がそこで彼に現れたからである」

①エロヒムという言葉（神の複数形）

\*偶像を指す場合（動詞、形容詞なども複数形）

\*真の神を指す場合（動詞、形容詞は単数形）

②ここは例外的用法

\*エロヒムに動詞の複数形（現れた）が使われている。

\*ラビたちは、天使であるとする。

\*三位一体の暗示である。

## 6. リベカのうばデボラの死

- (1) 想像できるシナリオ：リベカが死んで以降、デボラはパダン・アラムに住んだ。
- (2) ベテルの下手にある榿の木の下に葬られた。
- (3) その木の名は「アロン・バクテ」（嘆きの榿）と呼ばれた。
- (4) リバイバルの進行と同時に、悲しいことが起こっている。
- (5) いかなることが起こっても、目的地に向かって前進せよ。

## II. 更なる祝福（35：9～15）

### 1. 神からの直接啓示の5回目

- (1) ヤコブが追い求めてきた祝福が彼のものとなる。
- (2) アブラハム契約の2度目の確認。

### 2. 名前の変更

- (1) ヤコブからイスラエルへ。再確認である。
- (2) 「あなたの名は、もう、ヤコブと呼んではならない」

①これは、「ヤコブという名だけではない」という意味。

②これ以降神は、彼をヤコブとイスラエルの2つの名で呼ぶ。

### 3. 神の御名

- (1) 「わたしは全能の神である」

①エル・シャダイ

②創 17：1 アブラハムが 99 歳の時に神はこの御名で現れた。

#### 4. 神の命令と約束

(1) 「生めよ。ふえよ」

①ヤコブの子どもたちへの命令。

(2) 「一つの国民、諸国の民のつどいが、あなたから出て」

①一つの国民とは、イスラエルの民のこと。

②諸国の民のつどいとは、12 部族のこと。

(3) 「王たちがあなたの腰から出る」

①これは、創 17：6 でアブラハムに与えられた約束である。

②創 17：16 でサラに与えられた約束。

(4) 「わたしはアブラハムとイサクに与えた地を、あなたに与え、あなたの後の子孫にもその地を与えよう」

①ヤコブの子孫への約束

②ヤコブ個人への約束。

③これが成就するのは、メシア的王国（千年王国）においてである。

#### 5. ヤコブの応答

(1) 記念の石の柱を立てた。

(2) その上に油を注いだ。

(3) 以上のことは、創 28：18～22 の行為の繰り返しである。

①注ぎのぶどう酒を注ぐのは、新しい要素。

②ベテルが文字通り「神の家」（礼拝の場）となった。

(4) 「ヤコブは、神が自分と語られたその所をベテルと名づけた」

①繰り返しの行為である。

②今やここが、名実ともにベテル（神の家）となった。

### Ⅲ. 更なる訓練 (35：16～22a)

#### 1. ベニヤミンの誕生と、ラケルの死

(1) エフラテは、ベツレヘムの近辺にある。

(2) エフラテへの途上、ラケルは産気づいた。

①サマリヤの山地、ユダの山地を南北に通過する道がある。

②この事件は、エルサレムの北、ラマで起こった。

(3) 創 30：24 で、彼女はもう一人の子が生まれることを期待した。

- ①ベニヤミンは、約束の地で誕生した唯一の子。
- ②子が与えられなければ死ぬと言ったラケルが、子が誕生する時に死んでいる。

(4) 息子の命名

- ①助産婦の励まし
- ②ラケルは、「ベン・オニ」(私の苦しみの子)と命名した。
- ③ヤコブは、「ベニヤミン」(私の右手の子)と改名した。

(5) ラケルの埋葬

- ①現在、ラケルの墓は、ベツレヘム郊外にあるが、これは後代の伝承である。
- ②墓の上に石の柱を立てた。今日に至っている。
- \*モーセがこれを書いた時には、まだ残っていた。
- \*サムエルの時代にも墓はあった。Iサム10:2

## 2. ミグダル・エデルの事件

- (1) ルベンは、父のそばめ(ラケルの女奴隷)と寝た。

- ①長子が、父の権威を奪おうとしている。
- ②王のそばめと寝ている例。IIサム3:7、12:8、16:20~22

(2) ヤコブの沈黙

- ①後に呪いの言葉が出てくる。
- ②創49:3~4。ルベンは長子の権を失った。

## 3. その後、ヨセフを失う。

## IV. 「イサクのトルドット」の終結

### 1. ヤコブの12人の息子

- (1) レアの息子たち
- (2) ラケルの息子たち
- (3) ラケルの女奴隷ビルハの息子たち
- (4) レアの女奴隷ジルパの息子たち

### 2. イサクとヤコブの再会

- (1) 約30年ぶりの再会
- (2) ヤコブは1人で出て行き、民族として帰ってきた。

### 3. イサクの埋葬

- (1) 180歳で死んだ。
- (2) この時のヤコブは、120歳。
- (3) ヤコブは130歳でエジプトに下る。創47：9
- (4) イサクの死をここで出しているのは、このトルドットを終えるため。
- ①イサクは、ヨセフを失ったヤコブの悲しみを目撃している。
- ②イサクは、ヨセフがエジプトにいる間に死んだ。
- ③ヨセフは17歳でエジプトへ。
- ④ヨセフが39歳の時に、ヤコブは130歳でエジプトへ。
- ⑤つまり、ヨセフがエジプトに売られたのはヤコブが108歳の時である。
- ⑥この時イサクは、168歳でまた生きている。
- (5) エサウとヤコブが、イサクを葬った。

## 結論

### 1. 神の訓練法

- (1) 義務（約束）の履行
- (2) 更なる祝福
- (3) 更なる訓練

### 2. 人生は、箴言 15：15

#### (1) 【口語訳】

悩んでいる者の日々はことごとくつらく、心の楽しい人は常に宴会をもつ。

#### (2) 【新改訳改訂3】

悩む者には毎日が不吉の日であるが、心に楽しみのある人には毎日が宴会である。

#### (3) 【新共同訳】

貧しい人の一生は災いが多いが／心が朗らかなら、常に宴会にひとしい。